連　載

経済･統計の基礎知識　＜第 18 回＞

景気の先行指標②　機械受注

岡山　正雄

景気循環と設備投資

設備投資とは、企業が生産活動に必要な生産設備やソフトウェア等への支出のことである。景気循環との関連で見ると、景気の拡大局面では、需要が拡大し、現在の供給能力以上に製品が売れることが見込まれるような場合、企業は生産能力拡大のために設備投資を活発に行う。逆に後退局面では、需要が縮小するために、投資意欲は減退する。

また、設備投資の影響は単に投資を行った企業のみならず、設備を作ったメーカーの売上増や、そのメーカーが設備を拡大することで他の企業の売上増につながるというように波及する。そのため設備投資が経済に与える影響は大きい。

先行指標に採用されている機械受注

設備投資関連の指標のなかでも、特に先行性があるとされるのが、機械受注である。これは、機械メーカーの受注額を示した指標である。一般的に企業が機械を購入する際は、機械メーカーに発注し、それを受けてメーカーが機械を生産し納品、設置した後に稼動するという順番をたどるということを考えれば、機械受注は設備投資の最も「川上」を捉えた指標と言える。そのため、景気動向指数でも、資本財の価格変動の影響を除いた実質機械受注額(船舶･電力除く民需)が先行指標として採用されている。なお、一般的に船舶と電力を除いて見るのは、これら 2 つの規模が大きいことに加えて、景気実勢と関係なく不規則な動きをするためである。

また、実質機械受注の公表は他の指標に比べてやや遅い(翌々月の 10 日前後)ため、景気動向指数の速報値には、直近の動向が反映されていない。

機械受注の先行性は認められる

図表1には 90 年第 1 四半期以降の設備投資(ソフトウェア除く、季節調整値)と機械受注(船舶･電力除く民需、季節調整値)の推移を示した。これを見ると、機械受注が設備投資よりも数四半期程度先に推移している場合が多い。

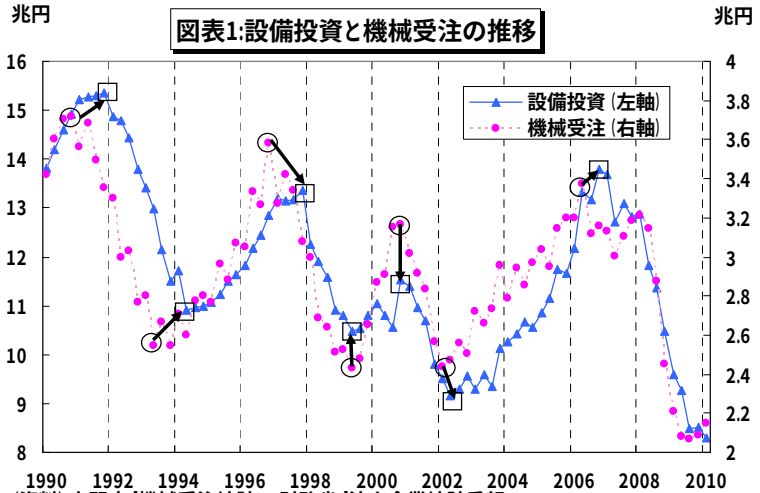
図表2:設備投資と機械受注の時差相関

時差	相関係数
直近	0.797
1四半期	0.846
2四半期	0.854
3四半期	0.817

(資料) 内閣府「機械受注統計」、財務省「法人企業統計季報」
期間は90年第1四半期～直近

また図表 2 では設備投資と機械受注の時差との相関を示した。これを見ると、直近との相関よりも、1～3 四半期前と相関の方が高いことが分かる。このことからも、機械受注は設備投資に対して先行性を持つ指標ということが確認できる。

図表1:設備投資と機械受注の推移



(資料) 内閣府「機械受注統計」、財務省「法人企業統計季報」
矢印は機械受注の山 (谷) から設備投資の山 (谷) に引いてある。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます